

木材利用の活動報告

地域の関係構築に向けた木材利用推進の取組

オホーツク総合振興局 東部森林室 普及課 小柳有弘

背景・目的

網走管内では森林認証の取得など先進的な取組が進められており、これまで地域材・認証材の利用拡大を図る見学会も多数実施されています。平成21年度には、美幌町でCoC認証を受けた「美幌. 木夢クラブ」内5社が、国土交通省の事業を導入し総合住宅展示場を建設しました。

東部森林室では、川上から川下に至る幅広い関係者の合意形成促進を図るため、この事業に対し支援・協力を行ったので報告します。

課題

- 地域材の普及方法、関係者との合意形成：工務店との連携、地域のネットワークづくり
- 見学会の開催方法や内容の検討：参加者の要望に合わせた見学会の展開
(要望の例 建築物の構造より内装に対する関心が高い → **完成見学会の実施が効果的** など)

事業の流れ



5/26 地鎮祭

7/16 構造見学会 (行政)

7/18 構造見学会 (一般)

10/10 完成見学会

課題解決に向けた取組

●構造見学会

- ・ポスターの作成、FSCについての講習会の実施、認証森林の現場設定など見学会のノウハウを提供し、積極的な人的支援を展開しました。
- ・森づくりに対する意識が高い「コープさっぽろ」と連携し、見学会の参加者の確保と、一連の活動を地域へ浸透させる効果をねらい、開催しました。

行政、一般住民に対し、住宅展示場の宣伝効果があったことに加え、地域材利用の取組に対する関心の喚起を図ることができました。

●完成見学会

- ・定期的な訪問で蓄積した写真情報を元に、建築過程がわかるパネル、ポスターなどを作成、展示しました。

完成住宅の見学を通じて、幅広い対象者に地域材の利用推進を普及することができました。広報資料は見学会にとどまらず東京のイベントに活用されるなど、主催者側との連携を深めることができました。

まとめ・今後の展開

- 集客の手段として、特定の団体と連携することは有効であった。
- 普及指導員がコーディネートすることで、地域材の利用を促進する効果的な取組ができた。
- 粘り強い普及指導活動を展開することで、関係者との信頼関係を構築できた。



今後は、川下から川上への情報発信と需要拡大を図り、道産材のPR活動を展開していく必要があります。